

議会だより入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No. 127

2003年10月27日



みんなで育てたお米がとれたよ

9月定例会

深層水関連企業の進出に備え用地を造成 補正予算 2P

土づくり事業の予算増額と維持を 請願・陳情 3P

「未来の町づくり事業」の補助基準は 常任委員会 4P

町政を問う 代表・一般質問 (10議員) 6P

シリーズ海洋深層水 (マコンブの養殖) 17P

「毎日が新鮮で楽しい」入善町に移り住んで 18P

海洋深層水活用施設付近に 用地を取得・造成

深層水関連企業の進出に備える

9月補正予算の概要

今回の補正予算は深層水関連企業の誘致に備えた活用施設付近の用地取得及び造成費をはじめ、リサイクルにかかる中間処理費、再商品化処理委託費を増額する。そのほか合併50周年記念にかかる事業費や請願・陳情など多くの要望に対応するため、道路改良舗装事業費を増額する。

これらによる一般会計の補正額は2億9432万円で、総額は98億6889万円となった。

海洋深層水の活用推進
などに
7719万円

海洋深層水関連企業の誘致に備えて、活用施設付近に約13900m²の用地を先行取得し造成する。
そのほか深層水アワビのエサとなる海藻類の培養実証を行う。

リサイクルの推進に

400万円

4月から開始した容器包装リサイクル資源の収集量が、当初計画に比べ約2倍の見込みとなった。

これにより中間処理費用、再商品化処理委託費を増額する。



海洋深層水活用施設付近

合併50周年記念品
などに

452万円

合併から50年の節目を、町民あげて祝うため「合併50周年記念品」として深層水仕込みのお酒を全世帯へ配布する。

海岸防災林造成地の
取得に

236万円

海岸防災林造成予定地として木根地区に1225m²を取得する。

道路拡幅や舗装などに

1億900万円

請願・陳情など多く寄せられている要望に、緊急度などを勘案しながら早期対応を図る。

今回の補正では、町道上寺田線ほか12路線、水路2カ所を整備する。

戸籍の電算化
取り組みに

1296万円

現在、手書きあるいはタイプライターで処理している戸籍を平成19年度までにパソコン処理に移行し、住民サービスの向上を図る。

請 願 ・ 陳 情 ・ 要 請

新川むつみ園進入道路の代替道路
取り付け事業の陳情

陳情者 新川むつみ園理事長

進入道路が危険であるとして代替道路の取り
付けを求める。 賛成全員で採択した。

土づくり事業の予算増額と継続について
の陳情

陳情者 J A入善町代表理事組合長

土づくりのための助成金の増額と事業の
3カ年継続を求める。 賛成全員で採択した。

横山体育館前グラウンドの拡張について
の陳情

陳情者 横山地区区長会長ほか1人

地区スポーツの振興に旧横山小学校グラウンド
の拡張を求める。 賛成全員で採択した。

漁村センター改修、および憩ホール
(仮称)の建設に関する陳情

陳情者 横山地区区長会長ほか1人

利用実態に応じた改修と、ホールの建設を求
める。 賛成全員で採択した。

意見書提出を求める請願

浜岡原発震災を未然に防ぐことに関する
陳情

陳情者 まわれ水車の会

原発震災を防ぐため浜岡原発全基停止の勧告を
するよう国に意見書の提出を求める。

反対多数で不採択とした。

条例・規則

入善町行政組織条例の一部改正

内部組織と分掌事務を定める。

賛成全員で原案可決

入善町各種委員会委員等の報酬及び

費用弁償並びに実費弁償支給条例の一部改正

期日前投票制度の創設に伴う改正。

賛成全員で原案可決

入善町廃棄物の減量化及び適正処理等に

関する条例の一部改正

廃棄物の処理及び清掃に関する法律の改正。

賛成全員で原案可決

入善町福祉のまちづくり条例

賛成少数で否決

山本正勝氏の名誉町民推挙に同意

9月5日の議会初日に、地域医療、町医、
学校医として町民の健康保持に努め、私財
を投じて育英奨学基金の創設に尽力された
功績を称え、山本正勝氏(入膳79歳)の名
誉町民推挙を全員賛成で同意した。

奨学生はこれまで延べ67人を数え、向学
心に燃える学生の物心両面での大きな支え
となっている。

情報公開審査会委員の任命に同意

議会初日、欠員となっていた委員の後任と
して井林耕栄氏(小摺戸69歳)の任命に全員
賛成で同意した。

教育委員会委員の再任に同意

9月19日の議会最終日に、任期満了となる
米島秀次氏(上野65歳)の再任を全員賛成で
同意した。

人権擁護委員候補者の推薦に同意

議会最終日、本瀬薫氏(春日62歳 新任)
と、谷口整子氏(桐山63歳 再任)の推薦に
全員賛成で同意した。

レポ一ト

総務

1市3町の合併問題で

Q 国からの補助で、1市3町から合併協議会に2000万円を負担金する。どのように使われているか資料の提出を求める。

A 9月20日の合併協議会で予算が出るので、議会にも知らせる。

Q 8月の合併協議会でお出された財産の資料は、不正確だった。朝日町や宇奈月町の第3セクターも含めて、正確なものを要求してほしい。



「未来の町づくり事業」で支援の上田獅子舞

A 財産の資料の取り扱いはについては我々も発言してきた。第3セクターについては検討したい。

財政収支について

Q これまでの地方交付税の減少をどうみるか。

A 交付税だけで見ると下がっているが、臨時財政対策債で補てんしており総合的にみる必要がある。

Q 国、県の補助が減れば基金を取り崩さなければならぬ。基金の現状はどうか。

A 今回、財政調整基金からの繰り入れを1億9200万円減らした。これまでの

基金残高は平成3年で16億円、平成7年で9億3000万円、その後は10億円で推移している。

「未来のまちづくり事業」について

Q 「未来のまちづくり事業」での補助団体が増えているが、補助基準を示せ。

A 単にボランティアというだけでなく、事業が未来につながる町のイメージアップとなるものを支援する。補助期間は1年間と3年間のものがある。

Q 消防費でのメデイカルコントロール協議会の役割は何か。

A これまで救急隊員に認められなかった気管内挿入などが可能になった。研修などで隊員の資質向上を図る機関。

こんな意見も

◎合併ばかりが頭にあって、町独自の考えが希薄になっていないか。合併しようがしまいが、町民の生活を守るための計画をつくるべきだ。

◎合併問題では、住民が意見を述べられるような機会を多く設けてほしい。

◎合併50周年事業の住民への記念品は当初深層水だった。厚生センターで問題となり酒に替えたが、もっと慎重に検討すべきだ。

教育福祉環境

奨学生を2人追加

Q 奨学金の申込者が増加し、支給者を当初の3人から5人にしたが、申込者の増加の程度と理由は何か。

A 昨年度までは4から6人程度だったが、今年は13人だった。リストラと再就職が困難なことが主な理由だ。

保育所に冷房を

Q 保育所によって冷房がある所とない所があるのは不公平だ。整備促進に努めよ。

A 保育所には原則冷房を付けない。改築に伴って乳幼児室には配慮している。食中毒予防のため調理室には全て整備した。

医療費の償還払いの簡素化を

Q 限度額を超えた高齢者医療費の払い戻しの手続き

常任委員会

が面倒で、有効に機能していない。もっと簡素化すべきだ。

A 申請していない人には個別に通知した。必要なら来年度、返信用封筒での申請も検討する。

コピー代の引き下げを

Q 図書館などの町施設でのコピー代30円は高すぎる。コンビニでは10円であり、値下げすべきだ。

A 指摘の通り検討したい。

議員提出の「福祉のまちづくり条例(案)」について

◎県に同様の条例があるし、調査委員会制度は監視強化につながる恐れがあり反対。
◎高齢者の増加と子育ての環境づくりのために必要だ。

こんな意見も

◎障害者及び高齢者の住宅改善への補助事業は、住民に知られていない。町報やケーブルテレビで、もっと頻繁に知らせるべきだ。

◎資源ゴミの減容で輸送コストの削減に努めるべきだ。

産業経済

深層水での

企業誘致は

Q 製塩業者の用地造成費7700万円が上程されているが、誘致の見通しが不透明だ。他の自治体では、土地開発公社の先行投資で重荷に当たっているとある。

A 春から話を進めてきた。はつきりと決まったわけではないが、受け皿がないのどうか。来なくても今後の活用を視野に入れ、誘致の姿勢を示したい。

Q 研究施設も含め、深層水施設周辺の土地利用計画が必要ではないか。

A 健康増進施設との配置と合わせ、全体の計画をイメージしたい。



福島県の「せせらぎ営農組合」

深層水の健康増進施設について

Q 健康増進施設については、サンウエル付近や中心市街地の活性化と合わせて考えるべきだ。高額な利用料や不便な場所では人は来ない。

A 深層水取水施設近辺を候補地と考えているが、十分検討したい。

Q 2℃、3℃の深層水をどのように加温するのか。温泉を掘ることも検討してはどうか。

A 温泉だけではまかなえず

石油燃料が必要。太陽エネルギーの活用も検討したい。

どうする、集落営農法人化

Q 集落営農法人化に補助金が組まれているが、今後どのように法人化を進めるのか。米価の値下がり、中心となる担い手が尻込みする現状があり、指導が必要だ。

A 今年からの新規事業であるが、政府の米政策大綱の後押しとして、県では年間20の組織化を目標としている。地元でまともな支援するが、町で押し付けはできない。集落内でやめたい人には、農業公社で流動化を斡旋している。基本的にはやる気のある人を支援する。

こんな意見も

◎土木費の箇所付けはこれからのことだが、日常生活に困る所など優先順を見極めて行い、議員にも知らせて欲しい。
◎分譲宅地購入者に20万円を補助しているが、町が造成して安く提供し人口増を図るべきだ。

町政のここが聞きたい そこが知りたい

(10人の議員が登壇)

- | | |
|-----------------------|---|
| 上野 等
(7P) | <ul style="list-style-type: none"> 平成16年度予算編成の基本的な考えは 1市3町の全ての財産を公表すべきだ 市街地活性化に多目的機能の施設を 深層水ウェルネス施設の基本構想の進捗状況は |
| 東狐 和
(8P) | <ul style="list-style-type: none"> 合併へのまちづくりビジョンを示せ 新市の名称はどうか 新市の防災体制、危機管理室設置の構想は 通学路の安全確保は 学校の耐震対策は万全か NPOに対する支援は |
| 松田俊弘
(9P) | <ul style="list-style-type: none"> なぜ開示できない、1市3町の財政状況 合併で新たに必要な9億5000万円の財源は 合併で国からの地方交付税はどれだけ減らされるのか 国指定の天然記念物、杉沢の保存方法の再構築を 水路の溢水、道路の冠水対策を |
| 大橋美椰子
(10P) | <ul style="list-style-type: none"> 合併後も学校給食は自校方式の存続を求める 学校給食の食材は安全か 雇用創出への取り組みを示せ 母子家庭の母の就業支援への取り組みを求める 技能訓練奨励金の復活を |
| 長谷友義
(11P) | <ul style="list-style-type: none"> 「米政策改革大綱」の対応と町長の考え方を示せ 土づくりで米の品質向上を |
| 本多幸男
(12P) | <ul style="list-style-type: none"> 他市町に負けない集客目玉施設が必要でないか 国が発表の作況指数は実態より高いのではないか |
| 中瀬範幸
(13P) | <ul style="list-style-type: none"> 元気高齢者の健康増進、生きがいづくりを進めよ パークゴルフ場を青野公園に整備せよ クリーンエネルギーの調査研究の推進と見通しを示せ |
| 九里郁子
(14P) | <ul style="list-style-type: none"> 町営バスの公立病院への運行を図れ 町独自の「とも補償」を堅持せよ なぜ急ぐ「海洋深層水ウェルネス施設」 公共工事業者のランク付け評点の公表を |
| 佐藤一仁
(15P) | <ul style="list-style-type: none"> 合併後の市街地計画の青写真を示せ 市街地中心で買収した土地利用と中心市街地構想は 中心市街地の活性化、発展への構想を示せ |
| 長田武志
(16P) | <ul style="list-style-type: none"> 活力あるまちづくりには、農業振興地域の土地利用の見直しが必要 農業・商業・工業ゾーンの基本的考えを示せ 農業振興地域への企業誘致のあり方は |

代表一般質問 第14回定例会

昨年、入善産米コシヒカリの一等米比率の低下は、大きな衝撃をあたえた。今年度は、田植え時期を遅らせるなど、さまざまな対策が取られた。品質の向上と豊作を願うものである。

代表一般質問は11日、12日に行われ、住民の代弁者たらんと白熱した質問となった。

主な内容は次の通りである。

議会事務局に議事録があります

平成16年度予算編成の基本的な考えは

上野 等 議員

深層水ウエルネス施設の
基本構想の進捗状況は

町長

新市誕生以降をも見据えた計画の策定を行っていく

10月末を目途に策定

問 平成16年度予算編成にあたっての基本的な考えを。米澤町長 緊縮財政は不可避だが、扶助費など生活関連経費をまず確保し、住民の生活基盤や地域経済活性化基盤の整備費は伸ばす必要がある。効果的な時期と方法で投資することが合理的な行財政運営につながる。考える。そのためには、歳入増が見込めない現在、経常経費の見直し、削減、合理化が必要である。また、合併を視野に入れた予算編成としたい。

1市3町の全ての財産を公表すべきだ

財産の数値は変動するので現時点で公表しない

問 1市3町の所有する財産は全て新市に引き継ぐとなっ



10月の法定合併協議会

ているが、公社、財団、第三セクターなど法人の財産状況を合わせて公表すべきだ。町長 合併関係市町が所有している土地や建物、預金、借入金など、財産は新市に引き継ぐことが通例である。合併

期日を17年3月としており、この間、各市町の事業の進捗や借入金などによって財産状況の数値が変動する。現時点で公表しても数字が1人歩きしてしまうことになり、公表すべきでないと思う。

市街地活性化に多目的機能の施設を

新市へ引き継ぐ覚悟で

問 入善地区公民館は計画を練り上げ、市街地活性化のため、長年要望の強い各施設と複合させて建設していくべき。町長 TMOでの事業化を期待していたが、見通しが立ちにくい状況にあり、町主導による開発の検討も必要である。周辺の土地利用、武村福祉会館、駐車場、市街地活性化の方向性など、いくつか整理しなければならぬ問題があり、その検討をしている。

なるべく早い時期にその方向性、概要を把握し、議会とも十分相談しながら先を見通したものにしたい。

問 ウエルネス施設の基本構想の進捗状況はどうか。

鍋谷海洋深層水課長 国や県と協議を重ねており、10月末を目途に策定していきたい。全体構想を基にして、今年度中に基本計画を策定し、できるだけ早い段階で建設に着手したい。

「深層水を利用した全国初の多機能温浴施設」とし、住民の健康増進と地域の活性化を図るための中心的な役割を持つ施設を目指している。グリーンツーリズムやブルーツーリズムなど、農山村と都市住民との交流を發展させるための起爆剤にしたい。

※TMOとは、商工会などによって組織され、町や事業者などと連携して、中心市街地活性化の事業を推進する団体。

合併へのまちづくりビジョンを示せ

東狐 和 議員

町長 扇状地にひと・くらし輝くまちを

合併協議会で検討する

新市の名称はどうなるか

問 「黒部川」、「黒部」、「新

問 市町村合併は財政基盤の強化や、行政事務の効率化だけが問題ではない。町の将来像と町民の期待や要望をどのように具体的に反映させるのか、そのビジョンを示せ。

町長 ビジョンは現総合計画の基本構想、基本計画と相違ない。扇状地にひと・くらし輝くまちを実現するため、6つの柱に基づく各種の事業を進めていく。具体的な事業は現在策定中である。



入善西中学校の耐震工事

防災無線は整備済み、他は調整中

新市の防災体制、危機管理室設置の構想は

問 新市の公共施設を結ぶ道路整備、防災体制及び危機管理室の設置構想はあるのか。

川」の3つに絞られたが「黒部」では、対等と平等の精神に反して、吸収合併をイメージする。

当局はどの名称と考えるか。

本多助役 母なる黒部川の恩恵と、地域に根ざした歴史と風土を考慮した新しい名称が選ばれると思う。

地域ぐるみで連携を図る

通学路の安全確保は

助役 1市3町とも防災無線が整備されており、4つの町のシステムを1つに統合した防災体制になろう。あとは新市建設計画の中で検討する。

問 全国的に通る魔的犯行や残虐事件が相次いでいる。通学路の安全確保や生徒への防

犯ベルの配布、携帯を望む。

西田学校教育課長 「子ども110番の家」を140カ所設置し、緊急時に対処している。防犯ベルは検討したい。

町内、学校、PTA、黒東防犯協会、住民が連携をとり、地域ぐるみで安全確保を図る。

学校の耐震対策は万全か

耐震補強工事は2年計画で

問 阪神淡路大震災は、戦後最大の災害であった。保育所、幼稚園、児童館、小中学校の耐震対策は万全か。

学校教育課長 建築基本法の改正で、昭和56年以前に建設された学校の耐震補強工事が義務付けられた。

すでに耐震工事を実施した学校もあり、次年度以降は、入善西中学校、入善中学校と順次実施する。該当する保育所は6カ所あり、耐震診断は義務づけられていないが、点検に努め安全性を確保する。

※NPOに対する支援は

「未来のまちづくり事業」で設立のための助成を行う

問 住民ニーズの多様化で、行政だけでは解決できない課題に住民協力は不可欠。NPOの具体的支援策を示せ。

上原企画広報課長 在宅福祉の事業を進める目的で、町では1団体が認証を取得し、1団体が申請中である。「未来のまちづくり事業」制度で、ボランティアグループやNPO法人設立のための初期費用の助成を行っている。

※NPOとは、医療、福祉環境などあらゆる分野における営利を目的としない民間組織。

なぜ開示できない、1市3町の財政状況

松田 俊弘 議員

助役

町も要請したが「数字が1人歩きする」と開示しない

問 合併協議会では新市に引き継ぐ基金や積立金が約171億円、借金で約913億円としているが、自治体別の内訳を明らかにせよ。

また、の中には黒部市の土地開発公社の負債約36億円が含まれているのか。

助役 町も合併協議会の事務局に開示を要請したが、数字が1人歩きすると危険なので公表しない。

中島総務課長 土地開発公社の分も含まれていると聞いている。

問 土地開発公社の分は含まれていない。黒部市議会で市当局が明らかにしている。

合併協議会の目的は、合併の是非を含めて、あらゆる問題を協議すること。住民が判断できる資料を公開すべきだ。総務課長 再度確認する。

合併で新たに必要な9億5000万円の財源は

特別職、議員、職員の削減

問 黒部市長は、サービスを高く負担を低くすると、新たに9億5000万円の財源が必要になると発言したが、財源をどのように確保するのか。総務課長 特別職、議員、職員の削減で、ある程度確保し他いろいろな検討が必要である。

合併で国からの地方交付税はどれだけ減らされるのか

1市3町で12億4000万円

問 国からの地方交付税は、小さな自治体ほど割高になつており、合併で規模が大きくなれば減額になる。1市3町の合併での減収はいくらか。

総務課長 10年間は現在の交付税が保障され、その後5年間で段階的に12億4000万円ほどの減額になる。

問 新たに約10億円の財源が必要になり、交付税の12億円減で、なぜ新市の財政が成り立つのか。せめて20年後の新市の財政見通しを示すべきだ。総務課長 新市のまちづくりプランを策定しているところ。合併協議会で明らかになると思う。

国指定の天然記念物、杉沢の保存方法の再構築を

必要な調査を取りまとめ国に要望する

問 杉沢では、杉の生長を助けるために、枝打ちや伐採も行われていたが、天然記念物に指定されてからはほとんど

手を加えなくなった。方針の見直しが必要だ。

また、低下した地下水位の対策も含め、専門家による調査を国に求め、保存のあり方について再構築すべきだ。金森生涯・学習スポーツ課長 来年度に植生及び必要な調査を取りまとめ、国の文化財補助事業として要望する。

水路の溢水、道路の冠水対策を

青島用水は整備の検討中

問 6区の青島用水の溢水対策、JRガード下や道路の冠水対策を検討せよ。

小森建設課長 青島用水は整備方法が見つかり次第対応する。東洋紡横のガード下は水門管理で対応する。排水ポンプは、パトロールを強化した。



国指定の天然記念物「杉沢の沢スギ」

合併後も学校給食は自校方式の存続を求める

大橋 美椰子 議員

学校教育課長 学校給食は教育の一環、1市3町で十分協議すべきだ

問 食品安全基本法の成立のもと、食物アレルギーに対応する給食体制づくりで、専門医と連携した学校の積極的な対応が求められている。

自校方式の我が町の学校給食は食材も安全だ。合併後も学校給食は民間委託やセンター方式でなく自校方式とする強い決意を示せ。

学校教育課長 給食は、児童・生徒の心身の健全な発達などのため、学校給食法に基づき学校教育の一環として行われる。町は週5日の自校給食を実施し大きな教育成果を上げてきたと認識している。合併後の給食方式は学校設置者にゆだねられている。1市3町で十分協議しなければならぬと思う。

**学校給食の食材は安全か
地産地消を原則として
指導**

問 遣伝子組み替えイネを学校給食に使用しないことの見書が国へ提出されたが、町内学校給食の食材の安全確認はされているか。

学校教育課長 食材に使用し

ている農産物は、地産地消を原則として指導しており、コマは地産産の「コシヒカリ」を使用している。

現在、遣伝子組み替えによる農産物の食品輸入はないと聞く。給食での調査は必要ないと判断している。

**雇用創出への取り組み
を示せ**

**雇用創出企業立地助成
金制度を新設**

問 昨年1月「入善町雇用対策推進本部」を設置したが、1年間の雇用創出の取り組みを示せ。

飛田商工観光課長 今年5月時点で県下の有効求人倍率は0・64倍で、依然として厳しい状況だ。引き続き企業誘致活動を続ける。

今年度から町では、雇用創出企業立地助成金制度を設けており、制度の周知に努める。

町内企業の雇用状況は、14年11月に比べ203人の減少。2月調査時での4月新規採用予定者は28人、3月退職予定者は23人という結果で、町内における就労口の確保が重要

な課題と考える。

**母子家庭の母の就業支援
への取り組みを求める**

支援センターを設置

問 母子家庭の母の就業の支援に関する特別措置法（平成20年3月末までの時限立法）が施行された。

児童扶養手当の受給開始から5年後に手当の一部が減額されることとなり、より一層母の就労確保が求められている。取り組みを示せ。

商工観光課長 県では10月から母子家庭等就業・自立支援

センターを設置し、就業相談や各種講習会を開催する。また、職業訓練などの期間中の経済支援としての各種給付金制度が新設される。制度の周知、普及のためのPR、情報の提供など協力体制を整えたい。

技能訓練奨励金の復活を

合併協議の中で検討

問 市町村技能再訓練奨励金は黒部市と宇奈月町で実施されており、再度、町の支給を求める。

商工観光課長 支援策は合併協議の中で検討したい。



自校方式で安全な給食

「米政策改革大綱」の対応と町長の考えを示せ

長谷 友義 議員

町長

農家との対話を通して農業ビジョンの策定に務める

問 平成16年から始まる生産調整は、耕作面積から生産目標数量に変わるとされている。

その転換は、中核・認定農家の優遇対策のように感じるが、町長の考えはどうか。

町長 昭和44年から取り組んできた生産調整も今年度を1つの区切りとして、34年間の



収穫後にお礼の土づくり

歴史を終えようとしている。来年から始まる新たな生産調整では、米の生産数量の配分が変わる。

この中で、産地づくり交付金は、水田環境を良好に保全しながら水田農業の改革を進め、消費者の期待に応える産地を育成するための交付金で、

その用途は地域の創意工夫で決めることになる。

このことから、地域水田農業ビジョンを町で策定することが義務付けられており、今年6月より策定チームを編成し会議を進めている。

町の基本理念として、専業農家（担い手）及び兼業農家の全員参加で生産調整対策に取り組んでいくことを確認している。

特に交付金の用途については、集落単位でのブロックローテーション計画を策定し、麦や大豆、飼料作物の作付け面積に定額助成を行うことなど、集落全体で取り組んでもらうための基本方針の策定に向けて努力している。

今後は、担い手農家、兼業農家ともに、対話を通して農業ビジョンを策定していく。

土づくりで米の品質向上を

田植え時期、土づくり、水管理、穂肥などが大切

問 町の転作面積の半分を占める大豆のサヤには、かつては殆ど豆が3つ入っていたが、今では殆どが2つである。

その要因の1つは、3年に1度回ってくる転作による地力減退があると思われる。

今年米の品質向上対策として田植え時期を遅らせたが、それだけで品質が向上するのかが疑問である。

収穫後に土へのお礼として手当てを施してこそ、地力の維持につながり、品質を向上できると思うがどうか。

町長 昨年12月末に入善産米生産品質向上対策本部を設置

し、珪酸石灰などの積極的導入や有機肥料の運用など、土づくりを実施している。

永年の転作により地力の低下が顕著にみられる。稲体の健全化や収量、品質の安定が望めないことから、農業ビジョンの中で地力増進のための経費に対する助成など、町独自の対応も必要ではないかと認識している。

良質米は、田植え時期の繰り下げだけではなく、土づくりをはじめ、生産中期の水管理や的確な穂肥の施用、草刈や病害虫防除の徹底など、的確な管理が大切である。今後関係機関と連携し、良質米生産地の地位確立に努力していく。

他市町に負けない集客目玉施設が必要でないか

本多 幸男 議員

町長 入善にしかない「こだわり」を大切に将来計画を新市へ

問 TMOの推進に町当局、議会も長期間討議し、商工会を中心に計画実現に努力されてきた。

「一時中断」という文書が出回っている。軽率過ぎないか。責任の所在も不明確であり、なぜこのような結末になったのか。

町長 平成10年度、商工会が「中心市街地活性化基本構想」を、平成11年度、町が「中心市街地活性化基本計画」を策定した。

平成14年から出資者12名、240万円の資金が集められたが、本年7月、出資金返還の方針を決め、8月19日付で一時中断を決定された旨の文書が関係者に送付された。

その理由として、「中核施設の建設財源確保が困難」「設立後の管理運営の見通しが立たない」などあげられている。

この問題の根底には、事務局体制が不明確、町民や商店街のコンセンサスが得られていないなど、無理が生じたものと考えている。

町としても街路灯やコミュニ

ニティ放送施設整備、イベント助成など側面支援をしてきたが、民間活力を引き出せなく、誠に残念である。

問 1市3町の合併が間近だからこそ、他の市町に負けない集客目玉施設が必要なのではないか。東洋紡社宅跡地1127坪及び民家54坪の土地は、TMOに関連して買上げたのではないのか。購入した総金額とその目的を示せ。

町長 現状では、TMO設立に向けた再結集は大変厳しいと考えている。今後は、行政が主体となり中心市街地の公園や、武村福祉会館の代替機能の整備など、入善にしかない「こだわり」を大切に将来計画を、新市の建設計画に位置付けたい。

大角財政課長 質問のあった土地は、総額1億1500万円で購入した。この土地は「中心市街地活性化計画」の中核として最大の役割を果たすものと考えている。

国が発表の作況指数は実態より高いのではないかと

把握に努めている

問 我が国の食料自給率は39%、農政は気象庁が決められているようなもの。国が発表した作況指数は、実態より高いのではないかと。

浜田農政課長 所得税法上必要な事から、坪刈をして実情の数値把握に努めている。

問 品質向上対策を継続して徹底すること、及び土づくりに助成する予算を組む考えは

あるか。

財政課長 努力する。

問 外来種といわれる巨大ヒエを退治する方策はないか。

農政課長 農薬の規制が強化され、町選定の除草剤を適期散布で効果をあげて頂きたい。手で抜くのが最も効果がある。

問 農業公社に農作業の受注委託幹旋業務も期待したい。

農政課長 農業研修希望者が予想以上に多く嬉しい悲鳴を上げている。変形田も含めた農作業の受託幹旋は、順調に進んでおり、今後も期待に応えるよう対処する。



再開発が望まれる「中央公民館跡地」周辺

元気高齢者の健康増進、生きがいづくりを進めよ

中瀬 範幸 議員

町長

高齢者のスポーツ、レクリエーション活動を普及する

問 高齢者の9割を占める元気高齢者に、健康増進と生きがいづくりをめざした活動を、どう指導援助しているか。

町長 高齢者向けのスポーツやレクリエーション、趣味活動は元気高齢者を多くする効果があるものと考えます。

高齢者スポーツ大会の開催援助、新しいスポーツの普及、老人福祉センターでのシルバースター教室の開催、さらに、各地区での公民館活動など積極的に指導援助しています。

問 福寿会は高齢者活動の中心組織として活躍している。実態と問題点を把握しているか。

町長 町には61の福寿会、5591名の方が登録されており活動補助金を出している。

地域における社会奉仕活動、教養講座や健康増進事業など積極的に取り組んでおり、事業

の実績報告を通じて、実態把握をしている。

会員数はここ数年増加傾向であるが、60歳代の加入率が低く、70歳以上が活動の中心となっている。

パークゴルフ場を青野公園に整備せよ

愛好者の意見を聞きながら検討する

問 高齢者スポーツとして、

今、最も盛んで増え続けているパークゴルフ場を、青野公園に整備し、老人スポーツの拠点にせよ。

町長 本格的に整備するとある程度の費用もかかる。愛好者の方々の意見を聞きながら、設置などについて検討する。

クリーンエネルギーの調査研究の推進と見通しを示せ

国、県と連携をとった研究機関の設置が望ましい

問 「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法」では、自治体に対して、計画的な新エネルギーの導入に努めよ、と定めている。クリーンエネルギーの調査研究については町だけでは進まない。産



元気さかんな高齢者

官学と連携した研究所を設置する考えはないか。

町長 町単独での設置は困難であり、国、県と連携をとった研究所の設置が望ましいと考えている。

問 入善町はマイクロ発電の宝庫と言われている。その実情を把握しているか。

町長 平成8年、月の又川で調査研究を行った。水利権、水量格差、用水のゴミなど様々な障壁と課題があるが、これらを解決し、入善町の特性を生かすためにも、県に共同研究を働きかけていきたい。

問 太陽光発電と風力発電について実用化の状況はどうか。

町長 太陽光発電の設置者について、町では、国、県と連携した補助制度を定めており、本年度11件の申請がある。今後は設置数も増加すると予測されるが、支援を続ける。

風力発電については、コスト的に見て時期尚早と判断している。

町営バスの公立病院への運行を図れ

九里 郁子 議員

商工観光課長

バスの増車に取り組む

問 現在、町営バスは始発から終点まで1時間10分ほどもかかり、高齢者のなかには車酔いなど、利用しにくいとの声が強いです。

あさひ総合病院など公立病院への運行を検討したのか。

商工観光課長 新たなルートを検討していきたい。地鉄バスが、新屋入善線の運行を来年3月までに廃止したいと申し出ている。来年度は、1台増車を含め検討したい。

町独自の「とも補償」を堅持せよ

関係機関と協議したい

問 小泉内閣のコメ政策改革は、稲作農家のわずか2%程度でしかない4ha以上の認定農業者、及び20ha以上の集落営農だけしか転作奨励金の対象としない。農家に不安が広がり、町当局と農協に苦悩を強いている。

転作奨励金交付の条件である町の地域水田農業ビジョンをどう検討しているか。
来年度の転作奨励交付金の

減額はいくらか。町独自の「とも補償」を存続せよ。

農政課長 ①全農家が政策に参加する。

②担い手農家の育成は、規模の大小ではなく意欲のある人とする。

③団地化や地力増進への助成、特産物の圃場確保をおこなうなどのビジョンを検討している。

町独自の「とも補償」は全国に誇れるものであり、関係機関と協議する。

奨励交付金の減額は2から3割と試算している。



米産善人待つ検査

なぜ急ぐ「海洋深層水ウエルネス施設」

住民の健康増進と全国に注目される施設に

問 世界初の海洋深層水を活用した本格的なタラソテラピー施設というが、2℃か3℃の冷たい水を温水に温めるには大変な費用がかかる。財政は今後もつと厳しくなると強調しながら、9億3500万円もかけて建設を急ぐ必要はどこにあるのか疑問だ。計画全体の見直しを求める。

深層水関連の工場誘致の土地購入費約4600万円を増額しているが、進出予定の製塩業者の情報を提出せよ。

町長 町民の健康増進と地域の活性化を図り、都市と地方との交流の場とし、宇奈月の観光客も引き寄せたい。海洋深層水課長 製塩業者については、事業者手が明確でない。現段階での公表は相手に迷惑がかりできない。

公共工事業者のランク付け評点の公表を

公表に向けて検討したい

問 公共工事入札参加資格者のランク付け評点はいつ公表するのか。

指名留保は理由を業者に告知し公表すべきだ。

財政課長 ランク付け評点は、今後、公表に向けて検討したい。

指名留保は口頭で告知している。公表は関係要領の見直しを含めて検討したい。

合併後の市街地計画の青写真を示せ

佐藤 一仁 議員

町長

各課から提出中、でき次第提示し意見をいただく

問 町民にとっては、合併した後の町がどのように発展していくのかが一番の気がかりだ。10年先、20年先の町の青写真をどのように描き、合併にどのような将来構想を示せ。

町長 将来の入善町のことについて各課のほうからいろいろ出してもらっている。でき次第、皆様に提示し、意見を頂いて合併協議会へ持っていきたい。

市街地中心で買収した土地
利用と中心市街地構想は

やわらかい緑のゾーンを

問 1億円を超える費用を投じ、市街地中心に土地を取得した。様々な利用方法が考えられるが、市街地の活性化、発展にどうつなげていくのか、その基本構想を示せ。

町長 武村福祉会館の跡地が、新市における入善町市街地の整備構想にかかわってくる。商店街の再生をねらい、現総合計画で、その整備を位置付けている。

しかし、TMO設立がうまくいかないなど、厳しい状況にある。国でも商業を中心と

した市街地活性化が進まない現状から、施策を見直す動きがある。

このため、新たな構想として、市街地の住環境を柱に整備を進めていけばと考えている。

具体的には、武村福祉会館や今回買収した東洋紡績社宅の跡地を含めたゾーンと旧中央公

民館跡地を中心とした2つのゾーンが市街地の核となる。

武村福祉会館は大変老朽化しており、改修費も大変なので改築すべきと考えている。

入善地区公民館や多目的ホールなどの機能を有する交流施設を念頭に検討したい。

また、入善神社、明治記念館、花月公園などがあり、緑も大変豊かなので、市街地におけるやすらぎと緑のゾーンとして整備したい。

中心市街地の活性化、
発展への構想を示せ

構想段階で時間を要する

問 現在の中心市街地の土地利用は決して誉められたものではない。中心地の衰退は著しいものがあり、町としても放置しておけない重要な問題

である。

少子高齢化に伴い、元町の活性化の起爆剤は、この中心市街地の土地利用が非常に重要と考える。取り組み姿勢を示せ。

町長 緑と人が交流する施設を中心に、中央通り線、つまり市街地道路の整備は必ず必要だ。

市街地における住環境を整備すれば、中心市街地活性化の一助になる。

今は構想段階であり、具体的な設計図を引くには時間を要するが、最悪でも合併後の新市計画の中には、議会の同意を得て計上していきたい。



どう利用する東洋紡社宅周辺

活力あるまちづくりには、農業振興地域の 土地利用の見直しが必要

長田 武志 議員

町長 いま少し経済状況を見極めて対応したい

問 町長は議案説明に先立ち経済情勢・雇用情勢についてその厳しさを強調された。国、県、関係機関と連携しながら、企業立地や地域経済の活性化、雇用対策など積極的対応が必要と、所感を述べた。雇用対策の解決には企業誘地が考えられるが、すぐには困難であり、将来を見込んでの環境整備が必要である。活力あるまちづくりに、均衡ある発展を目指した土地利用計画を示せ。

町長 国土利用法に基づく町の土地利用計画は、都市地域における用途区域と農業振興地域における農業振興区域がある。

町においては、利用計画に基づき市街地整備あるいは、農業基盤整備を行っている。国道8号バイパス事業の進展により沿線の土地利用について見直す時期がきているのかなと思う。

町には、ホームセンターや大型ショッピングセンターの進出希望が寄せられている。隣の黒部市において大型ショッピングセンターの撤退など、この地域における商業環境に厳

しいものがあると思っている。進出予定地は、現在も振興基盤の整備対策地域優良農地であり、宅地への転用は困難。いま少し経済状況を見極めて対応したい。

農業・商業・工業ゾーンの
基本的考えを示せ

新しいゾーン整備が必要で
あれば積極的に取り組む

問 農業振興地域に農業と商業、そして工業ゾーンのすみ

分けを含めた土地利用計画の策定に着手すべき。基本的考えを示せ。

町長 農業・工業ゾーンについて町では、農業基盤整備とそれに伴う農村地域工業導入地区を設定し整備を進めてきた。商業地域においては、市街地における商店街整備、あるいは、市街地隣接地域における大型ショッピングセンター設置などを行ってきた。

また、利便性を高めるためアクセス道路も整備してきた。

それぞれの地域を生かしたまちづくりを行っている。今後も、現在のゾーンを中心に整備していきたい。

それぞれの産業を取り巻く環境は大きく変化しており、社会資本の整備や経済情勢などを見極めながら、新しいゾーン整備が必要であれば、積極的に取り組みたいと考えている。

農業振興地域への企業
誘致のあり方は

時期がくれば取り組む

問 入善町全体は、農業振興地域に属している。今できている幹線道路の近辺は、優良農地というのが大半だ。

合併前に、農業振興地域での企業誘致を見通し、新たな土地利用計画が必要ではないか。

助役 町が策定する土地利用構想は、農業振興地域の農地転用の決定打とはならない。ただし、必要な時期が来れば当然取り組んでいかなければならないと思う。



国道8号線バイパス工事

町の誇れる資源、海洋深層水シリーズ!!

今回は、入善沖の「海洋深層水」を使用した事業の計画について説明します。

入善町の目玉事業である「海洋深層水事業」の現状と今後の計画について4回シリーズで紹介していきます。
今回は入善沖の海洋深層水を使用した利用促進や研究などの取り組みについて説明します。

利用促進支援事業を創設

平成13年12月に深層水施設の取水が始まって2年が経過しようとしています。

町では、入善海洋深層水の活用促進やブランド化につながる新商品の開発、新事業の創出を目的とした調査開発活動などに対して支援を行うため、平成14年度から「入善海洋深層水活用促進支援事業」を創設しています。

昨年度にこの事業を活用した事例は3例ありました。
一つ目は、入善海洋深層水の商品開発やブランド化計画の企画です。

二つ目は、入善海洋深層水を利用した製塩事業化の研究に取り組み、製塩工場の具体化構想です。

三つ目は、深層水を利用した農作物の加工や料理を研究し、「深層水味噌」や「しば漬」など10地区で取り組んだ事例をまとめた料理集です。
今年度もこの事業に取り組み団体として、新たに東京水産大学や富山大学、入善漁協、黒部川扇状地研究所などから打診があり、現在、各団体で計画を進めています。

東京水産大学は海洋深層水を用いた有用海藻培養の研究を計画。富山大学は利用目的に応じた深層水の加工技術の研究に取り組む方針です。

マコンプ養殖研究を開始

また、町では深層水の利用促進ばかりでなく、深層水の多段利用を確立するための技術確立にも力を入れています。

今年4月から販売を開始した「深層水あわび」にさらなる付加価値を付けるため、水産試験場の協力を得ながら、12月から深層水あわびの排水を利用してマコンプを育て、あわびのエサとして活用する養殖実証試験を開始します。

将来、「入善深層水あわび」の味の向上に一役買ってもらうとともに、販売促進の切り札になればとも考えています。

深層水全国大会を開催

全国で海洋深層水の利用について研究開発に取り組んでいる研究機関、大学、企業などの関係者が、年に一度集まって研究の成果を発表する全国大会が、来年10月に入善町で開催される予定になりました。この大会は第7回目を迎えて、今年が静岡県の焼津市で

開催されます。

大会には全国から約300人が来町することになり、入善町の海洋深層水を全国にPRするまたとない機会になると思われま。

会場は入善コスモホールをメイン会場にしてシンポジウムや研究発表を行う予定で、一般のみなさんにも関心を持っていただけるような企画にしていきたいと考えています。

この他、見学会として入善海洋深層水パークや扇状地の名水巡り、富山県水産試験場やタラソピアなどのコースも設定していく予定です。



あわびのエサにマコンプ養殖

毎日が新鮮で楽しい

入善町に移り住んで

入膳 北野 浩美

(中国上海出身)



7年前の20歳の時、上海の高層ビルの都会から、この入善町へ嫁いで来ました。

緑豊かな山と海、なんと言っても空気が美味しい。義父母、夫、4歳の息子との5人家族。おじいちゃん、おばあちゃんの手助けで子育ても安心です。

5年前に車の免許を取り、隣町へ働きに行っています。夫は仕事が忙しく、子育ても家事もあまりしません。実家の父母は同じように料理や家事をしていたので、なぜ?という気持ちです。

こちらでは、お客さんが来るといつも玄関で立ち話で、中国ではあいさつと同時に、もう部屋へ入って来ます。

先日、運動会があり、1チーム参加しました。以前リレーにも出たことがあったのに、

今年は足が突っ張りショックでした。車社会に馴れ過ぎたようです。

義母が「めんどうくさい」と言ったので、私が「何も臭くないよ。何が臭いの」と言ったら、今はほんぽんと言えりようになりました。でも新車と洗車のようにわからない言葉もあります。

もうすぐ大連から職場へ3人が来ます。通訳を兼ねてお役に立てればと思います。

来年は2年ぶりに里帰りする予定です。息子を日本と中国、どちらでも働けるように厳しく育てています。

水の小径にチューリップ畑、四季おりおりの自然が私にはたまらなく楽しい入善です。

(談話をまとめました)

入善むかし話

(森 清松編より)

「横山けいせい」

明治の世になるまで、横山から八幡の東にかけて、加賀前田公の米倉が、ずらりとならんでいました。

そして、ある時期になると、近くの町や村から集められた年々米が、山のように積みあげられ、大きな千石船についで運ばれたのです。

さあ、この千石船がくると、いまままで眠ったように静かだった村が、いっぺんににぎやかになり、わかい男女が、さかんに米をかついで船につきこみました。それは、1俵につき、いくらのお金ももらえるからで、働きのあるものには、たくさんのお金がころがりこんできました。

こうして、千石船がくるたびに、村人のふところに、思いがけない大金がはいったので、自然に気がゆるみ、ぜいたくをするようになりました。横山けいせい(傾城)という名は、こうして生まれたのです。

お年よりの話によると、そのころ、年とつた女の人でも、ちよつと外出をするのによい着物をきて、白たびをはき、町へ買ひものにいけば、むやみにほしものを買い、お金を湯水のように使ったといひます。



横山の「諏訪社」

編集の窓

10月10日に衆院解散、戦後21回目の総選挙が実施される。

小泉首相は「内閣の実績と構造改革路線の継続」を訴え、郵政事業、道路関係四公団の民営化推進など国民に信を問う。

今回の総選挙で「マニフェスト」という言葉をよく聞く。このマニフェスト(政権公約)とは、ビジョンを明確にし、具体的プログラム(数値目標)や財源の確保などを国民に示し、アピールするもの。

有権者としては、各党の政策をよく吟味し、大切な1票を投じたものである。

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 松田 俊弘 |
| 副委員長 | 大橋美椰子 |
| 委員 | 長谷 友義 |
| 委員 | 山下 勇 |
| 委員 | 松澤 孝浩 |
| 委員 | 中瀬 範幸 |

地球にやさしい再生紙を使用しています